

新 盆 供 養

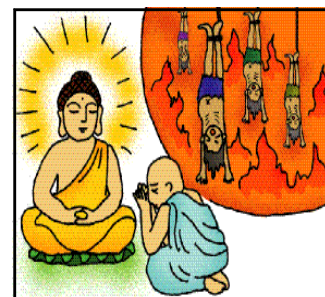
お盆のいわれ

お盆は正式には「盂蘭盆会」と言います。これはインドの言葉の一つ、サンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊り）を漢字で音写したものです。お盆のはじまりについては『盂蘭盆経』の中の親孝行の大切さを説いた教えが昔から知られています。

それは、「お釈迦様の弟子の中で、神通力一番とされている目連尊者が、ある時神通力によって亡き母が餓鬼道に落ち逆さ吊りにされて苦しんでいると知りました。そこで、どうしたら母親を救えるのか、お釈迦様に相談にいきました。するとお釈迦様は、おまえが多くの人に施しをすれば母親は救われると言われました。そこで、目連尊者はお釈迦様の教えにしたがい、夏の修行期間のあける7月15日に多くの僧たちに飲食物をささげて供養したのです。すると、その功德によって母親は、極楽往生がとげられました」という話です。それ以来（旧暦）7月15日は、父母や先祖に報恩感謝をささげ、供養をつむ重要な日となったのです。

わが国では、推古天皇の14年（606）に、はじめてお盆の行事が行われたと伝えられています。日本各地で行われるお盆の行事は、各地の風習などが加わったり、宗派による違いなどによってさまざまですが、一般的に先祖の霊が帰ってくる

と考えられています（*浄土真宗では靈魂が帰って来るとは考えない）。日本のお盆は祖先の霊と一緒に過ごす期間です。



時期	内 容		
～1ヶ月以上前までに	お寺の手配	お盆期間はお寺も大変忙しい時期です。僧侶のご都合を聞き、予約を入れます。お寺での新盆法要があり場合もありますのでご確認ください	
～12日までに	購入・組み立て [初盆・新盆の場合] 灯籠、盆提灯の購入 精霊棚の組み立て お供物の準備など	提灯を箱からだしたり、棚を組み立てたりします。まだ飾り付けはしません。新しい口ウソクやお線香など、必要なものは、この日までに購入しておきます。迎え火や送り火のときに用いる松の割り木なども購入しておきます。 ※新盆提灯やほうろく皿もサービスでお届けしてます	
13日 お迎え日	[午前中] 精霊棚の飾り付け お供物・供花をします。	[日中] お墓参り	[夕方] 迎え火を焚く
16日 送り火	[午前中] 最後のお供えものをする	[夕方] 送り火を焚く	初盆・新盆で使用した白提灯と一緒に燃やすか、菩提寺に納めます

初盆・新盆とは、告別式を終え四十九日が過ぎてから初めて迎えるお盆のことを言い、「はつぱん・にいぼん」と読みます。

四十九日より前にお盆が来た場合には、初盆の法要は翌年に行ないます。

6月頃になりましたら 株式会社ムラカミのサービス部門「ハートフルパートナーズ」よりお盆に関する詳しいご案内をさせていただいております

新盆提灯の無料サービスなどの特典がございますので ご利用の程 宜しくお願い致します

※本サービスは通常プランご利用の方が対象になっております